

雪害等に関わる年末年始期の緊急輸送の実施について

平成18年1月18日

昨年12月中旬からの記録的な豪雪により、年末年始期の物流機能が日本海側を中心に大混乱しました。

この対応策として、平成17年12月28日から平成18年1月4日まで、年末年始期に運休の計画をしていた列車「100本」を急遽復活運転して、お客様のご要望にお応えしました。

なお、列車の運行に際しては、臨海鉄道などJR貨物グループ及びJR旅客会社のご協力により、約300人の関係者が休日返上で業務を遂行しました。

1. 雪害等に対する列車の運転

昨年12月中旬からの大雪及び羽越線の輸送障害により、鉄道輸送は大きな影響（運休）が出ました。年の瀬を控え物流の最需要期であったこともあり、お客様からのご要望をもとに、下記の列車を運転しました。

(1)運転期間	平成17年12月28日～平成18年1月4日	
(2)運転本数	コンテナ列車	33本
	車扱列車（紙製品）	2本

2. 石油列車の運転

厳しい寒さにより灯油等の消費が大幅に増え、大雪によりフェリーやタンクローリーによる輸送も影響を受け、北海道・東北・関東地方内陸部の石油製品の備蓄タンクの貯蔵量が底をつく状況になるなど、政府の「寒波・雪害対策本部」から指示を受けた石油元売会社から、「石油製品の安定確保」の緊急要請を受けて、下記の列車を運転しました。

(1)運転期間	平成18年1月1日～平成18年1月3日	
(2)運転本数	車扱列車（石油製品）	65本（北海道内12月31日運転の2本を含む）